

# 今こそ、 我々の意識改革と研鑽を

上高井教育会会長 宮崎達夫



第186号

発行所 上高井教育会  
発行人 上高井教育会会長 宮崎達夫  
編集人 会報編集委員長 市川武彦  
印刷所 須坂新聞社

本年度の教育会長を務めさせていただくことになりました。会員の皆さまのご支援ご協力をいただきながら、精一杯努力をし、その任を果たしたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ致します。

さて、教育には「時代の変化に応じて変わるもの」(流行)と、どんなに時代が変化しても「時代を越えて変わらない価値あるもの」(不易)があります。現代のように変化の激しい時代であるからこそ、不易なるものを、子どもたちには、確実に身につけてほしいと願うものがあります。

また、学力については、単なる知識の量として考えるのではなく、自ら学び、自ら考えるなどの「生きる力」を身につけているかどうかと、したいものであります。

● 基礎的な知識や技能を身につけることも、  
● 豊かな人間性を培うことも  
● たくましく生きる体力を身につけることも

生きる力の基盤であり、不易なものがあります。

この「不易流行」ということは、先輩の先生方が長い間築き上げてこられた上高井教育の精神であります。私たちは

今こそ、この精神をしっかりと受け継ぎ、積み上げられた教育理念や教育実践を大切にしながら、確かな歩みを続けたいと思っております。

先きに二十一世紀を展望して、教育改革が進められ、中教審や教課審等の答申そして告示が行われたことはご承知のとおりであります。

平成十四年度から実施される新学習指導要領は、完全学校週5日制のもとに、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力や態度を養うなど、「ゆとり」のある教育活動の中で、一人ひとりの子どもたちに「生きる力」を育てることを基本的なねらいとして改訂されました。

本年度から移行措置が実施され、「総合的な学習の時間」の新設や中学校における選択履修幅の拡大など、学ぶことの楽しさや成就感を味わうことができる特色ある学校づくりがはじめられています。

特に「総合的な学習の時間」については、昨年、今年と二年続けて、谷川先生に講演をしていただきました。この学習では、

● 自然体験やボランティアなどの社会体験

● 見学や調査  
● 発表や討論  
● ものづくりや生産活動など  
さまざまな体験的な学習や問題解決的な学習が積極的に展開されることが望まれています。本会でも、本年度から研究組織に「総合的な学習」の研究委員会を位置づけました。

七月には実践研究に谷川先生直接のご指導をいただく機会も予定されております。

また一方で、完全学校週5日制による学力への影響について不安なむきもあります。

ある調査によると、「学校の授業がわかるか」(授業の理解度)の問いでは、「大体理解できている」が小学生で七割、中学生で五割を切って、高校では四割になっていると言います。

義務教育の内容は、基礎基本として国民共通に身につけるべき知識、技能であります。この点からも、私たち教師自身は、どのようにしたら子どもたちが基礎基本の内容を確実に身につけることができるか、深く考えなければなりません。

子どもの興味や関心または将来の進路志向に応じて、個別指導やグループ指導、習熟度別指導やチームティーチングによる指導、さらには選択学習の導入などによって、子どもたちが確実にわかる・できる授業の工夫をしていかなければなりません。このように見えますと、総合的な学習の推進はもちろん、完全学校週5日制の導入に伴う新しい学習指導要領の実施にあたっては、我々教師自身の意識改革とこ

れまで以上の研鑽をして知恵とズクが求められています。

先の研究総委員会でも申しましたが、本会の主要事業の一つである研究活動においても、会員は自分の実践を持ちより、主体的な参加によって、自分の属している研究会の研究が、ぜひとも自分のものとなるようにしたいものであります。「集団の研究は、個人の研究によって支えられ、個人の研究は、集団の研究によって触発され、高められるものであります。」

研究会の意義はここにあります。先生方の充実した研究活動をご期待申し上げます。

最後に、上高井教育会の今後のあり方について、いろいろ

とご意見をいただきました。三百七十六名の会員、誰もが、本会の一員として、受身の姿勢でなく、「自分の、自分たちの教育会である。」という自覚に立って、どういふ点で、どのように改善すれば、魅力ある親しみ易い、より身近な教育会にしていけるのか考えていただきたいと思います。そして、本年度は、先ずは、積極的に本会の各事業に参加して、大いに提言をいただきたいと思ひます。本会の二十一世紀に向けて求めたいこうではありませぬか。

(墨坂中)

## 教育会だより

- 選挙公示(役員選挙)
- 第1回代議員 第2回選挙管理委員会
- 理事長選挙 第3回選挙管理委員会
- 第2回代議員 第4回選挙管理委員会
- 副理事長、理事、信教常任委員、信教代議員選挙
- 第5回選挙管理委員会
- 教育研究集会三団体代表者会
- 第1回常任委員会
- 教育会会計監査会
- 第3回代議員会 初任者会員歓迎会(初任者会員5名)
- 第6回選挙管理委員会
- 研究総委員会(於須坂小学校) 同好会発足会
- 同好会世話係・会長会
- 監事選挙 第7回選挙管理委員会
- 第2回常任委員会
- 第1回研究委員会世話係・委員長会
- 教育会定期総会・講演会(於須坂市役所西館)
- 平成11年度会務並びに決算・平成12年度事業計画並びに予算の承認
- 会員意見発表 北澤 晃教諭(高山小学校)
- 「子ども1私」の成り立ちからの教育の問い返し」
- 講演/講師 谷川彰英先生(筑波大学教授)
- 演題「総合学習をめぐる二つの視点」
- 第1回研究小委員会 第3回常任委員会
- 第2回同好会
- 第4回代議員会
- 谷川先生ご指導・生活科・総合的な学習(於相森中学校)
- 上高井教育会報第186号発行

# 学ぶ喜びの味わえる授業に

研究委員会会長 成田 茂

豊かな人間性・自ら学び自ら考える力などの「生きる力」を育むことをねらいとした平成十四年度からの新教育課程が一部移行措置によって今年度より実施されている。各校でも改定の趣旨を生かした教育活動の取り組みが行われているかと思う。

研究委員会では、先生方が毎日の授業の実践の中から課題を見出し、授業校での研究を加味しながら、そこに生ずる基本的・本質的な問題を授業を通して究明することによって、先生方の職能向上に努め、上高井教育の充実発展を図ることを願っている。そこで、今まで授業を行っていなかった「生徒指導」・「学校図書館」委員会が研究委員会から切り離し、委嘱委員会で研究を深めてもらうことにした。そうすることによって以前、両委員会の人は小委員になることができなかつた訳だが、その問題も解消することができた。また、今年度から始まった「総合的な学習」については「生活科・総合的な学習」委員会として位置づけ授業実践や研究を行っていただくようにした。

「自ら課題をもって追究し学ぶ喜びを味わえる授業」をテーマに掲げ、四年次を迎えます。研究内容として

- (1) 基礎的な内容を重視し、教材研究を深めた授業の量や質を高める授業
- (2) 体験的活動を重視し、活動の量や質を高める授業
- (3) 子ども自らが授業に参加し追究課題を明確に学習する授業

の三点を上げ、授業改善を図った研究を進めていただければ願っている。

昨年度に続いて中心講師の谷川彰英先生に七月十五日相森中学校二年生で、中学校でも始まる「総合的な学習」の授業を生徒に直接やっていただきます。テーマにも関わる訳だが、谷川先生が自ら課題を持ち、参加型の授業を公開される熱意、また授業にかけられる熱意を学びとして毎日の授業の充実に、それぞれの委員会の研究の活性化になればと願っている。

それぞれの委員会では研究的に進めようとする意気込みが見られる。過去においては授業校の研究に主体をおいて研究を行い、授業研究会を行っている委員会もあったようだが、十一月の研究委員会の授業に向けて事前授業に小委員も積

極的に参加し研究を深めて、授業改善を行うために授業校ばかりではなく、委員会の考えも出そうとする取り組みが見られる。会合等の精選をしようと呼ばれている中で、子どもたちに学ぶ喜びを味わえる授業にするためにどうしたらよいか、各委員会で真剣に考えている結果であると思われる。

このような取り組みの積み重ねが毎日の授業の充実をはかるきっかけとなり、子どもにとっても授業に意欲的に参加し、分かる楽しい授業になる。先生方の主体的な研究を願っている。

(高山小)

## 「総合的な学習」の取り組み

生活科・総合的な学習世話係 月岡利久

昨年度の「生活科」に「総合的な学習の時間」が加わり研究委員会が発足しました。

平成十四年度の学習指導要領改定で新設された生活科は、生活習慣や技能を身に付けさせ自立への基礎を養うことを目標としている。

平成十四年度から施行される「総合的な学習の時間」は、(1)課題発見・解決能力(2)主体的・能動的態度 (3)情報収集・整理・発信力 (4)総合化された知識・技能(5)自己の生き方

平成12年度 県外視察者 上高井教育会 (敬称略)

学校名	氏名	視察目的	視察方面	視察時期
井上小	金田 達也	大都市における総合的な学習のあり方について研究	京浜方面	11月中
井上小	佐藤富美子	個と歩む授業の参観研修	富山県堀川小	5月30・31日
豊丘小	田中 敬士	上越教育大学付属小の公開授業参観	上越教育大	未定
仁礼小	宮善美代子	豊かな教育課程の創造について研究	富山県堀川小	5月
仁礼小	山本 裕	新教育課程の研究	新潟県	6月
仁礼小	和田 哲郎	総合学習についての研究	上越教育大	5月26日
墨坂中	中村 文成	科学教育研究協議会全国大会 (教材研究・情報収集)	千葉県	8月2・3・4日
墨坂中	浦野 善之	不登校等の生徒指導についての研究	北陸・新潟	9月22か25日
相森中	新井 孝之	生徒の興味を高めながら技能も伸ばす部活動の研究	関東か関西	1~2月
豊洲小	勝山 幸則	総合的な学習 (水を活用した環境教育) について	東京方面	10月下旬
豊洲小	三井 清隆	歴史と文化の分野からの総合的な学習の実践校視察	東北方面	10月下旬
豊洲小	海沼 章	自立する個と学習法の研究	奈良女子大	10月
高山中	佐野坂芳美	英語科のITまたはコース別学習の実践校視察研修	東海方面	2学期中
高山小	中原 功博	個が育つ授業参観研修	富山県堀川小	5月30・31日
東 中	斎藤 礼子	学校保健統計の先進校の視察研修	関東方面	7月
東 中	西村 晃洋	英語科コース別学習指導の先進校視察研修	関東方面	7月
日野小	大沢 博光	体育研究の先進校の視察研修	東京	10月
須坂小	中城 裕子	総合的な学習(福祉・ボランティア)の実践校の視察研修	関東方面	11月
須坂小	綿田由起子	総合的な学習 (環境教育) の実践校の視察研修	北陸方面	11月~12月
高南小	宮坂ゆかり	横断的、総合的な発想からの国語教育の展開	日本国語学会	8月上旬
仁礼小	西沢 朋子	再現構成法を使った道徳授業の参観と研究会参加	千葉県大森小	11月~12月
旭ヶ丘小	古畑 祐二	これからの体育学習の考え方・進め方の研究	東京方面	11月~12月
小布施中	小林 巧	総合的な学習・学活・行事の融合カリキュラム研究	高崎市八幡中	9月13か14日
森上小	下村智恵子	疾病児童への対応と指導についての視察研修	関東方面	7月か9月
常盤中	田幸 覚	他県の同和教育先進地域の現地視察と研修	大阪方面	5月22・23日

の自覚をねらいとしている。「総合的な学習」の意義は一つの教科に対応することが困難な「新しい教育課題」を取り上げることができることである。情報教育、国際理解教育、福祉教育、環境教育などである。また、学校の学習と社会生活の関わりを子どもに気づかせる機会をあたえることができる。

小学校三年生から中学校三年まで、授業時数に差はありますが、概ね週三時間以上実施することになり、本年度の

移行期間で各学校で実践されていますが、私たち現場では、ほとんど経験のない活動を進めています。学習指導要領に明確な内容の規定がなく、解説書も教科書もなく、私たちはそれぞれの学校で実践している事例から、自校の地域や学校、児童・生徒の実態等に応じた活動を創りあげていかなければなりません。委員会では、生活科の内容に加え、総合的な学習の実践事例をより多く委員の皆様に提供することが大切と考えています。

七月十五日(土)に中心講師の谷川彰秀先生に相森中学校で「総合的な学習の時間」の公開授業をして頂き、また十一月十七日(金)には小山

(栗ガ丘小)

# 道を究むる

同好会会長 石井光男

今年度も上高井の多くの先生方がそれぞれの同好会に参加され、自己の専門性やいは教師・人間としての道を究めるべく力強く歩み出されておられることは大変嬉しいことであります。

諸先輩から受け継がれているこの会は初めは教育会からの補助も無く自費による活動、正に同好の士の研鑽でありました。「上高井教育百年の歩み」に寄稿しておられる故徳永哲夫先生によりますと、昭和の初期、当時の先生はあらゆるものを経験体験しそれを血肉に教育の根底にしたい熱望があったとのこと。勤務を終えた後或いは休みに調査研究を、師の門戸をたたく、著名な方の講演や研究会、講習に参加、時には夜、長野まで自転車で駆けつけたこともあったと言います。教育会館に残されている多くの研究物や上高井誌に記載されているそれぞれの分野の内容はそんな先輩達の血と汗の結晶と思わずにはおられません。また、大なる地域への貢献も見逃すことができないことです。さて、わたしたちが子ども達の指導者たる立場の者として、日々の研鑽が必要だと言ふことは誰もが承知のことですが、あらためて思い知ったのは社会人となった知的障害者の世話をしている〇先生の手による二十歳を過ぎた若者や五十歳代の人達の絵

画や工芸品であった。茜色に染まる夕焼け空に飛ぶ白鳩や澄みきった鮮やかな空の青の美しさに思わず見惚れたのです。知的に恵まれぬ人の才能をどうまでも見事に引き出すとは。Y先生は若き頃より図工教育を通して知的障害者の教育に情熱を傾け、さらにまた、彼らが生き甲斐を持ち職業人として生きるために、一人一人の才能を引きだそうと常にいろいろな分野の研鑽をしておられる。今、子どもの感性を豊かにする教育も必定です。感性の豊かさは対象への働きかけ、感ずることが豊かになる。対象への知的認識がそれを可能にするのです。五官を通して体験がそれを可能にするのです。私達自身も常に感性を練磨することが子どもの感性を育むことを可能にするのです。

ところで、生き甲斐を持つた生涯を送る人生が人間であることよく言われます。今は亡きYという先輩がしみじみ語ってくれました。「教師生活を終えた後の第二の自分の人生が勝負だ！そこに、己れの本物の人間としての値打ちが……」。世阿弥の著花伝書に「稽古は強かれ、情識は無かれ」と言う言葉があります。「慢心を無くし常に一意専心して稽古に務めよ」という。私達の研究と修養もこのようでありたい。(須坂小)

# 道徳教育同好会

後藤 正幸

上高井道徳教育同好会は、県道徳教育学会の会員として「道徳の時間」の授業研究を中心に活動しています。そして、年一回、その成果と課題を持ち寄り、県内の仲間と共に研究協議を続けています。「すべて言葉をしみじみといふべし」(良寛「戒語」)という教えがありますが、今や誰もが口にする「心の教育」という言葉の重みを改めて考えさせられます。

「学校ではどのような道徳教育をしていますか」と問われて、何と答えたらよいのでしょうか。

道徳教育は、すべての教育活動、全領域で行われているはずであることは言うまでもありません。しかし、本当にそう言い切ることができるのでしょうか。そうあるべきであり、そうあるはずだと願っているだけでは、一人一人の子どもたちの内に、道徳性を育てることは到底できないことではないでしょうか。

言い切ることのできない理由の一つに、「道徳の時間を挙げる」ことができないでしょうか。道徳の時間が、時間的にも内容的にも充実したものになっ

ていないのに、学校では道徳教育をすべての教育活動の中で行っていると言ふには、あまりにも空しいと思うからです。やはり、学校における道徳教育の中核となるものは「道徳の時間」の指導ではないでしょうか。

子どもたちにとって本当に魅力ある道徳の時間が実現されることではないでしょうか。子どもたちの前に立つ私たちは、常に子どもたちに対して道徳教育を行っているという自覚をもつと共に、その重大さに気付き「道徳の時間」の指導をねんごろに実施したいと思えます。

「道徳の時間」を大事にしての担任の姿勢を子どもたちは確実に見ているものです。そしてまた、「道徳の時間」の授業をしようとすればするほど、子どもたちの内面世界の理解をせずにはいられなくなり、子ども理解へと自ずから導かれていくものです。

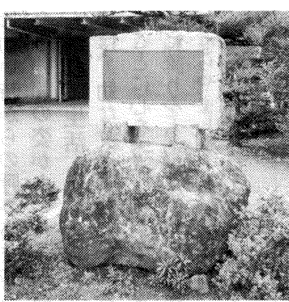
本同好会の現在の課題は、会員の減少にあります。本年度は八名の会員で出発をしましたが、かつて三十余名の会員を教えた本道徳教育同好会があります。「心の教育」という言葉が口々に語られるようになった今、その会員数が減少している事実を重く受け止め、本同好会のあり方を改めて考えさせられています。

## 本校の宝 ③

### 旭ヶ丘小学校

人口増加の著しい旭ヶ丘団地内に、昭和四十六年六月、本校は豊洲小学校から分離し、開校式を迎えた。開校から数えて三十周年を迎え、この十一月には記念式典も計画されている。当時は三百五十名程いた児童も、平成六年頃には約半数に減ってしまつた。現在新しい団地の児童も加わり児童数が増え、活気に満ちた声が校舎にこだましている。「緑豊かな松川の……」で始まる本校の校歌には、当時の地域の方々や諸先輩が、旭ヶ丘小学校建設にあたり、並々な

らぬ努力で困難を乗り越え、未来に夢を託した心が込められている。校歌を歌う度に、石を掘り校地をならし、草木を植えて学校環境づくりに精魂を打ち込んだ当時の様子が伝わってくる。作詞作曲は、創立の頃に籍されていた先生方の手によるもので、開校三年目の昭和四十六年に発表された。校歌には、一番二番という区切りはなく、最初の歌い出しから終わりまで一つの曲として出来上がっている。開校三十周年の節目に当たる本年、歌い継がれてきた建学の精神に



光を当て、不易なるものを再確認し、新たな出発の礎としていきたい。

本校には、校歌と共に代々大切にされてきているものに「精一杯、自分の花を咲かせよう」という学校目標がある。自分の希望や願いを持って主体的に取り組む人となり、合わせて人間性豊かな児童の育成を目指している。この言葉は、例えば同和教

育旬間のスローガンとして「みんなの心に思いやりの花を咲かせよう。」というように表現されたり、また青少年赤十字活動の合い言葉になるなど、教育活動の道しるべとして日常化されている。記念誌をひもといてみると、卒業生(当時高校生)の文章に、「精一杯自分の花を咲かせようというテーマ、今でも言われていますか……；中学、高校と進むにつれ、ようやく本当にわかってきたのではなにかと思えます。」とある。諸先輩や数多くの卒業生がこの言葉に愛着を抱き、旭ヶ丘小のみんなの合い言葉として大切に継承されてきた学校目標と校歌。その願いを心に受け継ぎ、明るくたくましく育ってほしいことを祈ってやまない。(塩島弘之)

# 火ばら談義



須坂小 高沢 恵

## ここだけの話

塚口美恵

「まま、まま、まま。」夕方、保育園へ息子を迎えに行つた時の言葉である。まるで何十年ぶりの再会のように飛びついてくる。「母さんのとギョーッと」と言う。

「じゅー、じゅー。」と言いながら、私を抱きしめてくれる。この頃、その感触が一番ホッとする時になった。育休が明けてまだ半年も経っていないのに、息子の成長ぶりには驚くばかりである。とともに、自分の変貌ぶりにもかなり驚いている。

一人暮らしは大学の頃からだった。料理、洗濯、掃除等人並みにやっていた。しかし、教員になり東信の立科で便利なものは何もない所で生活が始まった頃、家事一般をほとんどしないで生活している自分がいた。毎日外食、掃除はほとんどせず、洗濯もたまに……というふうなものである。今から考えれば一体何をしていたんだろうと不思議になるが、その頃は仕事と遊びに夢中で他の事は何も考えられなかった。そんな私が今、偏りのないよう食事を作り、毎日洗濯をして、こまめに掃除をして、暇があると花の世話なんかしている。

## 伝統の祭りから思うこと

安永亮子

先日、友人の結婚披露宴のこと、新郎の友人たち十数人が心温まる余興を行った。彼らは皆、地元の子供の友達である。驚いたことに入場してきた彼らは皆さし一枚にハチマキ姿。先頭の二人がそれぞれ大きなろうそくを抱え、その後から新郎が数人にかつがれてきた。何事かと思えばそれは地元の祭の雄姿であった。新郎をひな台にのせると彼らはかけ声と共に勇壮な踊りを披露してくれた。その声は力強く、

会場にいる人たちは私も含め、しばらく圧倒されていた。その後彼らの一人が祝辞とともに祭りの紹介をしてくれた。地元では何百年も前から伝わる伝統的な祭りで、小さな町だが毎年三月三日には十万人という人が見物にくると言う。男達は皆、その年の豊作を願う、稲の刈り取りの様子を踊りながら町を練り歩くという。祭りの中心となるのは町の青年団員で、一人一人にろうそく班やちようちん班といった仕

事の長を務めることになる。スピーチした一人は、警備班の長として無事にその責務を果たした新郎を誉めた。それは聞いていた私たちの心に、その話が入り込んだことからは、祭りの中心は祭りの話であった。祭りのことを聞けば皆目を輝かせて話してくれ、そこに幼い時からの呼び方で呼び合う仲間の姿があった。地元を離れ、生活している私としては、幼な友達が今だに一つのこと心に心を寄せ合い、ふるさとに誇りをもって生きている姿がうらやましかった。

今、世の中では青少年に よっているだけなんじゃないかしら……と自問してしまいます。「歌う」って、もっと本当は、心の中に動機があって、自然で、のびのびといていて楽しくて、すっきりして、聴いている方も、同じ気持ちになれるものだと思うのです。今年、どこかで「ゴスペル」に挑戦したいと思っています。職員合唱もいいし、音楽同好会もいいし、思い切ってPTAコーラスもいいかしら。いい仲間達と、歌い合わせる喜びを実感できるように。

## ゴスペルに魅せられて

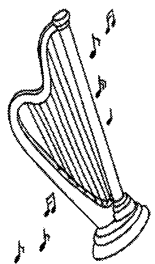
中村恭子

「歌う」ってことは、本当はこういふことなんじゃないかなあ……。

数年前から、宗教曲や黒人霊歌から派生した「ゴスペル」というジャンルの音楽が、注目され始めています。映画でも多く取り上げられましたので、ご存じの方も多いと思います。聖歌隊のような響きと独特なリズム、ソロのアドリブ、リズムののった動き……。初めて聴いた時、見た時は、体中に鳥肌が立ちました。「これだ!!」という感じでした。

「歌う」ってことは、本当はこういふことなんじゃないかなあ……。これが、小学校からだただひたすら歌い続けてきて、そのまま音楽の仕事させていたという私が最近思うことです。今まで歌ってきた中で、心に強く残っているジャンルは「宗教曲」です。旋律線や和音の何とも言えない美しさ。歌詞の意味を調べると、そこには「神」への祈り、すなわち歌うことの動機づけがはっきりと存在することがわかります。「歌わずにはいられない心」が

学校の子どもたちは、毎日歌を歌っています。でもそれは、私がかわい顔をして、歌わせ



(豊洲小)

## 編集後記

新たな気持ちでスタートした一学期も残りわずかになりました。お忙しい中、原稿をお寄せくださった先生方、本当にありがとうございます。

本年度は、次のメンバーで会誌、会報をお届け致します。

- 委員長 市川 武彦(東中)
- 副委員長 川上 三雄(高甫小)
- 委員 小林 茂子(高山小)
- 中西 裕一(日滝小)
- 小池 寿子(小山小)
- 藤澤 隆之(旭ヶ丘小)
- 山浦あつ子(小布施中)
- 相川由紀子(相森中)
- 山崎 祐子(常盤中)
- 山岸由美子(東中)